

## 平成 27 年度 第 2 回大阪府学校図書館研究集会 報告

平成 27 年 11 月 11 日

研究部

1. 日時 平成 27 年 11 月 4 日（水）14:00～16:30
2. 場所 （株）内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS
3. 報告者と内容

①「アクティブラーニングと図書館」東京学芸大学 高見 京子

学校図書館法の確認から始まり、新しい教育の動向、特にアクティブラーニングにおける学校図書館の役割や、これからの図書館のあり方についてなど、幅広い提案があった。中教審が求める主体的で協働的な学びにとって学校図書館の活用が不可欠であること、また、「活用される図書館」であるためには ICT をどのように導入するかなど、示唆に富む講義であった。質疑の中では、司書教諭の専任性についての質問があり、兼任の場合でも文科省の目安としては授業時間数が 10 時間程度に軽減されるよう示されていることが確認された。

②「第 2 回ビブリオバトル in 如是中学校 2015」高槻市立如是中学校 小松 宏

ビブリオバトルのルールを中学校で取り組みやすいように変えて、学級から文化祭における全校の取り組みへと発展していく様子が、具体的な資料とともに示され、実践者も生徒も楽しんで取り組んでいる様子が伝わった。質疑の中では、実際に使われたワークシート等の追加資料を求める声に対して、発表者から快諾を得ることができ、これから取り組んでみようと考えている参加者にとっては、大変有意義であった。後半、高見氏からの助言も加わり、アクティブラーニングの理論とビブリオバトルの実践が結びついた形で終了した。

4. 参加者数 136 名

（小学校 18 名、中学校 74 名—うち、南河内地区教研から 34 名、高校 41 名、支援学校 1 名、大学 2 名）

5. 成果と課題

本年度は、第 1 回を小学校、第 2 回を中学校・高等学校を主な対象として研修内容を計画したが、どちらもこれまで以上の参加者数となり、次年度以降の開催のしかたについて参考となった。また、第 1 回の案内を全校郵送としたり、第 2 回の会場を内田洋行で行ったり、地区教研から団体参加を得たり、これまでと異なる要素が何点かあり、今後の運営に生かしていける所は生かしていきたい。高図研との共催は 2 年目であるが、今後も一緒にさせていただけるとありがたい。開催準備については、特定の人間に負うところが大きくなっているため、今後、運営体制を工夫していかなければならない。